

大浦をゆく

来たる石見銀山遺跡世界遺産登録
五周年を契機とする、新たなる展開に
向けるの提言

意義

五十猛町大浦港は石州有数の天恵良港にして、近
世は天領(石見銀山御領)田貢米及び産銀(後頁史料
参照)の積出港、或は北前船定寄港として、西國に盛
く知らる存在でありました。また「五十猛」という地名の
ものか、日本書紀に明記されるよう、素戔嗚尊と俱
に新羅の國尸彘(イヒ)より渡らせ給うた、その御子「
五十猛命」(いそたけのみこと)に因むものであります。

大浦の海への実を出し最先端部を「大崎(オホサキ)岬」と
謂いますや、「辛(イハ)の元東(もとあづま)辛崎(いはさき)」と号せられておりました。
「辛」は「韓(かん)神(かみ)社(やしろ)」に他なりません。五十猛町大浦地区
の祭祀を「韓神(かんかみ)新羅(しんら)神社」と謂い、湾奥(わんおく)油壱(あぶらい)山(やま)に
鎮座します。東部(とうぶ)湊(みなと)地区では「五十猛(いそたけ)神社(かみ)社(やしろ)」
とせたりますや、こちらのうか本家とされます。韓
神(かんかみ)新羅(しんら)神社は、一見(いちけん)五十猛(いそたけ)と無縁(むげん)のよう思われ
ますや、「韓(かん)神(かみ)社(やしろ)」は「五十猛(いそたけ)神(かみ)命(のみこと)」の異名(いみな)とする説(せつ)が、

江戸時代より連綿とて伝えられております。
の西嶽を「^か韓^{やま}郷山」と謂い、西隣り宅野町「^か韓^し島浦港」と相俣つて、当地帯の古代より^か韓半島との縁深証に左に溢れこぼるのがあります。

万葉集第三五、柳本人麻呂の有名な長歌に、
つのはほふ石見の海の言はく辛の崎なる
海石にと深海ほふる芒此磯にと玉藻は
ほふる玉藻なる……

とある「^か辛の崎」とは、「^か大崎^か自昇」の古名である
「^か辛崎」もその有力候補地としてこれであり、梅原猛氏
も当地を訪問した際その可能性を示唆せしむる歌
を詠るに、現在その石碑が建てられています。

古代史教への奇蹟も然ることながら、大浦の町は稀に
みる絶景の觀賞点でもあります。大崎自昇及び上部
御崎山灯台は、西は石見海浜公園大崎自昇から、東は日の
碕に掛け一挙、ハートに^か適う空前の立地条件を有
するのがあります。更に、裏手に三瓶の雄峯聳え、
一隅右方には、^か物部神社「聖山」なる「^か鶴降山」の稜
線も覗けるのがあります。これを見逃す手はありま
すよ。五十猛大浦港は、本東温泉津港同様世界
遺産に組み入るべく、大田市の「^か空室」のがあります

日本書紀五十猛神登場の件をよく読めば、この説話の主役は、実は五十猛神である、父とされる素戔嗚尊も、妹とされる大屋津姫命も、極津姫命も強て役を為しおぼりません。つまりこの御三神の出演は、文学的裡色と断いて過言ではあり得る。五十猛神とは、史上に存在した新羅人をモティとせる可能性さえあります。

五十猛神祭祀の足跡より鑑ると(後貞地回を参照)とし、五十猛神の命布は列島四方へ表に及んでおぼりませぬ。殊に島根県に聞くと、五十猛町以西には一も見出しません。従って、少くとも中国地方に於ける「五十猛神」の地は、この大田市五十猛町大浦である。蓋し性顯る所かきりと確信致します。然向、「五十猛」を強調すること、大田市を全国に向けてアピールすることも相成り、千客万来のアツク行いともありのさあります。五十猛神を戴ける南韓人(おそらく倭系人でありまらう)の大量亡命というものが、この説話の背景にあるかと思われまます。

具体案

JR大田市駅から温泉津、大森へ向かうバスコースに何卒五十猛町大浦を終りて頂まで、と切望致します。バス一台分2530名程度を募ります。国道九号線沿い和田珍珠本店内下車、事前説明、トイレ着後、一端和田珍珠工場横の海浜へ降ります。以後防波堤内道路を辿り、右手に五十猛神上陸の足跡とされる、神島、

子^ニ神^ニ島^ニ、神^ニ上^ニ島^ニを見^み遣^やりつ^つ一^一キ口^口弱^弱、茂^茂梨^梨へ上^上が^がりま^ま
 す。茂^茂梨^梨は^は素^素老^老翁^翁が^が回^回取^取初^初に^に天^天降^降り^りま^ます新^新野^野頭^頭の「
 向^向ア^ア茂^茂梨^梨」を^を念^念頭^頭に^に名^名を^を起^起ニ^ニセ^セリと^と伝^伝え^えら^られ^れて^てお^おり
 ます。茂^茂梨^梨より^{より}正^正定^定寺^寺に^に由^由大^大崎^崎の^の自^自身^身へ^へ及^及び、梅^梅原^原猛^猛
 碑^碑の^の前^前方^方か^から^ら大^大果^果觀^觀を^を甚^甚能^能しく^{しく}頂^頂ま^ます。更^更に^に石^石段^段
 を^を通^通じ^じて^て大^大神^神宮^宮の^の麓^麓を^を極^極め^めます。その^{その}後^後大^大神^神街^街中^中を^を巡^巡
 り、<sup>神^神新^新野^野頭^頭の^の自^自身^身へ^へ向^向か^かい^います。神^神新^新野^野頭^頭の^の自^自身^身へ^へ向^向か^かい^います。
 は^は再^再び^び町^町中^中を^を巡^巡り^りて^て和^和田^田珍^珍味^味本^本店^店に^に戻^戻り^り段^段取^取り^りて^てお^おり
 ます。当^当地^地に^に三^三日^日三^三夜^夜を^を奠^奠劬^劬致^致し^します。都^都合^合時^時間^間中^中か^か
 ら^ら高^高岡^岡の^の行^行程^程、基^基本^本的^的に^に全^全て^て徒^徒行^行と^とな^なり^ります。現^現地^地が^が下^下
 は^は二^二、四^四名^名必^必要^要と^とな^なり^りま^まし^しり^り。</sup>

去^去る^る一^一月^月二^二十^十六^六日^日、三^三瓶^瓶荘^荘行^行前^前の^のほ^ほほ^ほ同^同工^工を^を巡^巡り^り
 班^班五^五十^十名^名か^から^らな^なり^り一^一日^日僅^僅十^十九^九、お^おか^かり^りに^に好^好評^評を^をお^おり^りま^ま
 した。そ^その^の早^早く^くも^も一^一月^月後^後、リ^リビ^ビター^{ター}の^の方^方か^から^ら新^新現^現を^を募^募
 り^り再^再訪^訪し^しれ^れま^ました。大^大ま^ま可^可能^能性^性を^を感^感ぜ^ぜし^しり^り出^出
 発^発事^事と^とな^なり^りま^ました。

補助金の用途 ツア^{ツア}一^一史^史の^の募^募集^集用^用に^に一^一ツ^ツリ^リト^ト五^五千^千枚^枚程^程
 度^度の^の作^作成^成費^費に^に充^充て^てま^ませ^せて^て頂^頂ま^ます。和^和田^田珍^珍味^味
 各^各店^店舗^舗及^及び、五^五十^十猛^猛歴^歴史^史研^研究^究会^会員^員の^の手^手を^を通^通じ^じて^て各^各々^々へ^へ
 配^配分^分致^致した^{した}所^所存^存と^とな^なり^りま^ます。

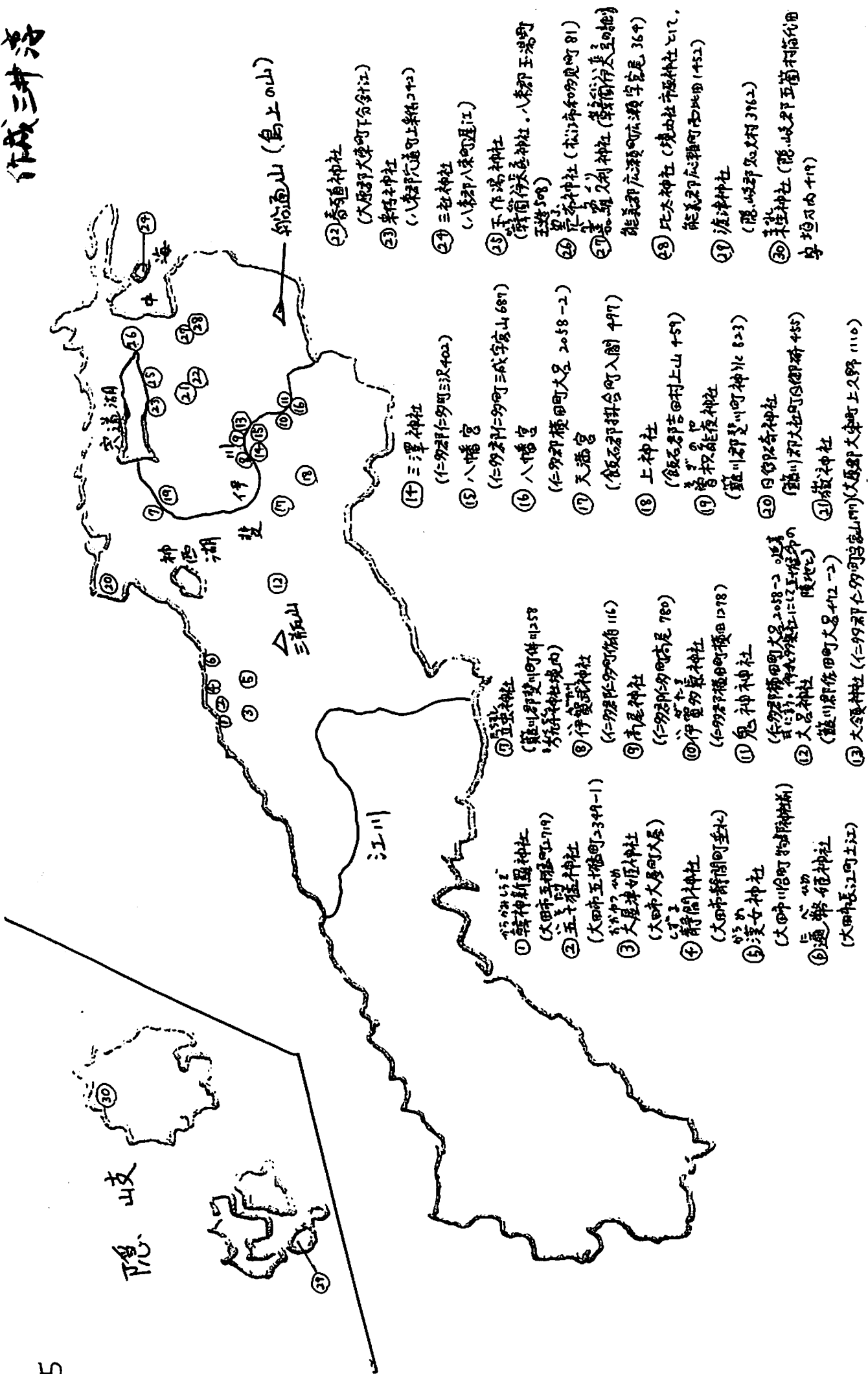
五十猛歴史研究会
 五十猛町 三井淳記

五十猛神祭祀の足跡(島根県編)

イッタクケルカニ

※ 永見敏郎氏の調査による。五十猛歴史研究会第四回講演会(21、平成22年11月17日、18日)。

作成三津落



- ① 舞神新羅神社 (大田市五福町719)
- ② 五十猛神社 (大田市五福町2349-1)
- ③ 大屋津女臣神社 (大田市大屋町大屋)
- ④ 静閑神社 (大田市静閑町垂水)
- ⑤ 湊女神社 (大田市川合町物部神社前)
- ⑥ 通勢姫神社 (大田市長江町土江)

- ⑦ 五雲神社 (隠岐郡斐川町併町1558 隠岐神社境内)
- ⑧ 伊賀武神社 (仁多郡仁多町併町116)
- ⑨ 高尾神社 (仁多郡仁多町高尾780)
- ⑩ 伊賀乃氣神社 (仁多郡横田町横田1278)
- ⑪ 鬼神神社 (仁多郡横田町大屋412-2)
- ⑫ 大岩神社 (隠岐郡斐川町併町1558 隠岐神社境内)
- ⑬ 大合神社 (仁多郡仁多町宮家山町) (大原郡大津町上久野1110)

- ⑭ 三澤神社 (仁多郡仁多町三沢402)
- ⑮ 八幡宮 (仁多郡仁多町三成字家山687)
- ⑯ 八幡宮 (仁多郡横田町大屋2058-2)
- ⑰ 天満宮 (隠岐郡郡合町入間497)
- ⑱ 上神社 (隠岐郡吉田村上山459)
- ⑲ 香取能夜神社 (隠岐郡斐川町神水823)
- ⑳ 日守奇神社 (隠岐郡大津町白御崎455)
- ㉑ 敬神社 (大田市長江町土江)

- ㉒ 香通神社 (大原郡大津町下合谷江)
- ㉓ 果得神社 (八束郡穴通町上果得242)
- ㉔ 三社神社 (八束郡八束町遅江)
- ㉕ 下作湯神社 (群書類天志神社。八束郡玉湯町 玉湯598)
- ㉖ 宗本神社 (松江市和多見町81)
- ㉗ 喜島又利神社 (東部信長史蹟) 能美郡穴瀬町穴瀬字家尾364)
- ㉘ 比太神社 (境港市比太神社717, 能美郡穴瀬町西比田1452)
- ㉙ 渡津神社 (隠岐郡久美町3162)
- ㉚ 某神社 (隠岐郡五箇村高田町 島田町419)

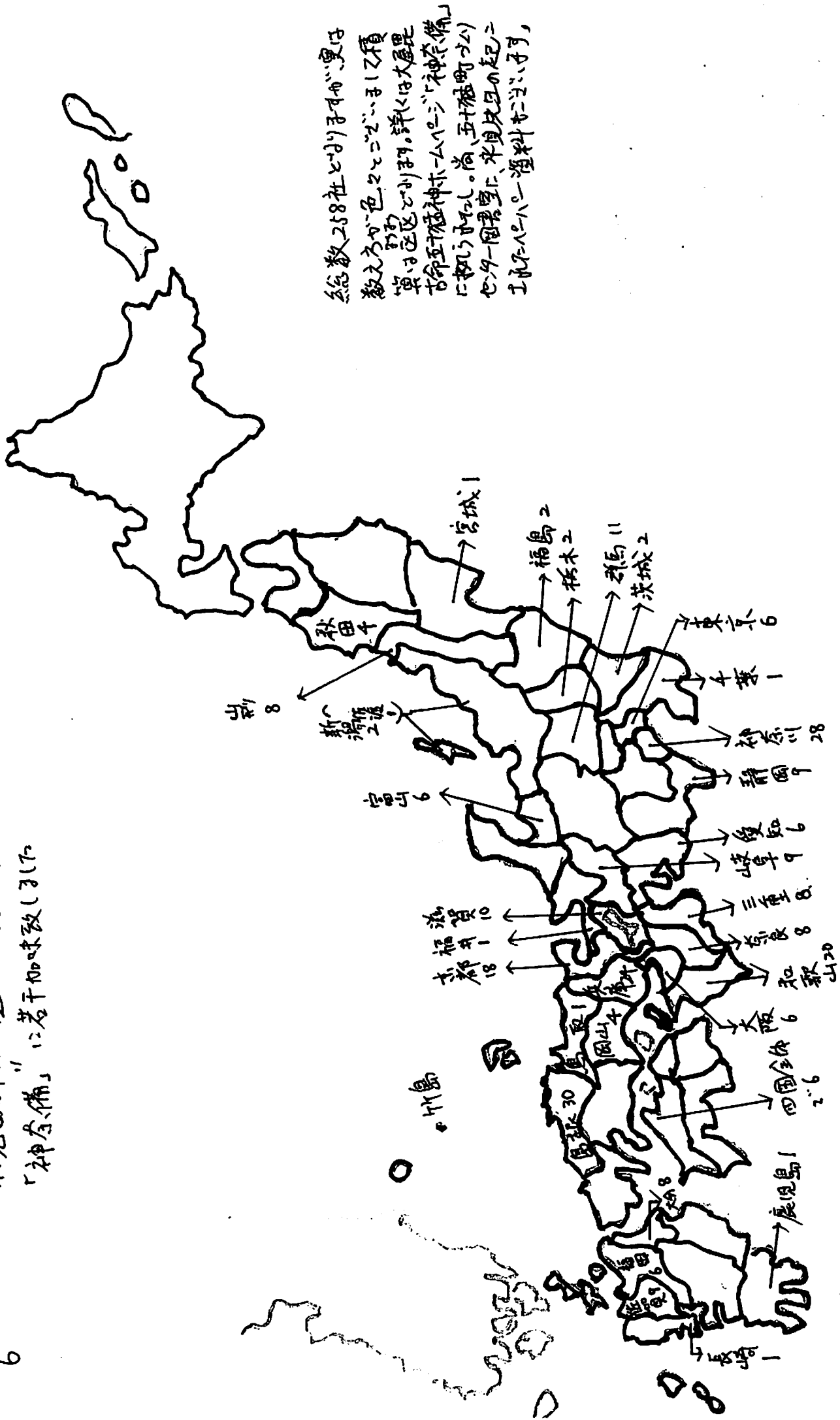
五十猛神祭祀の足跡全国編 (一)

改訂版

作成三井湾

6

永見敏郎氏調査「大屋異古神・五十猛神ホムヘニジ」
「神奈備」に若干加味致しり



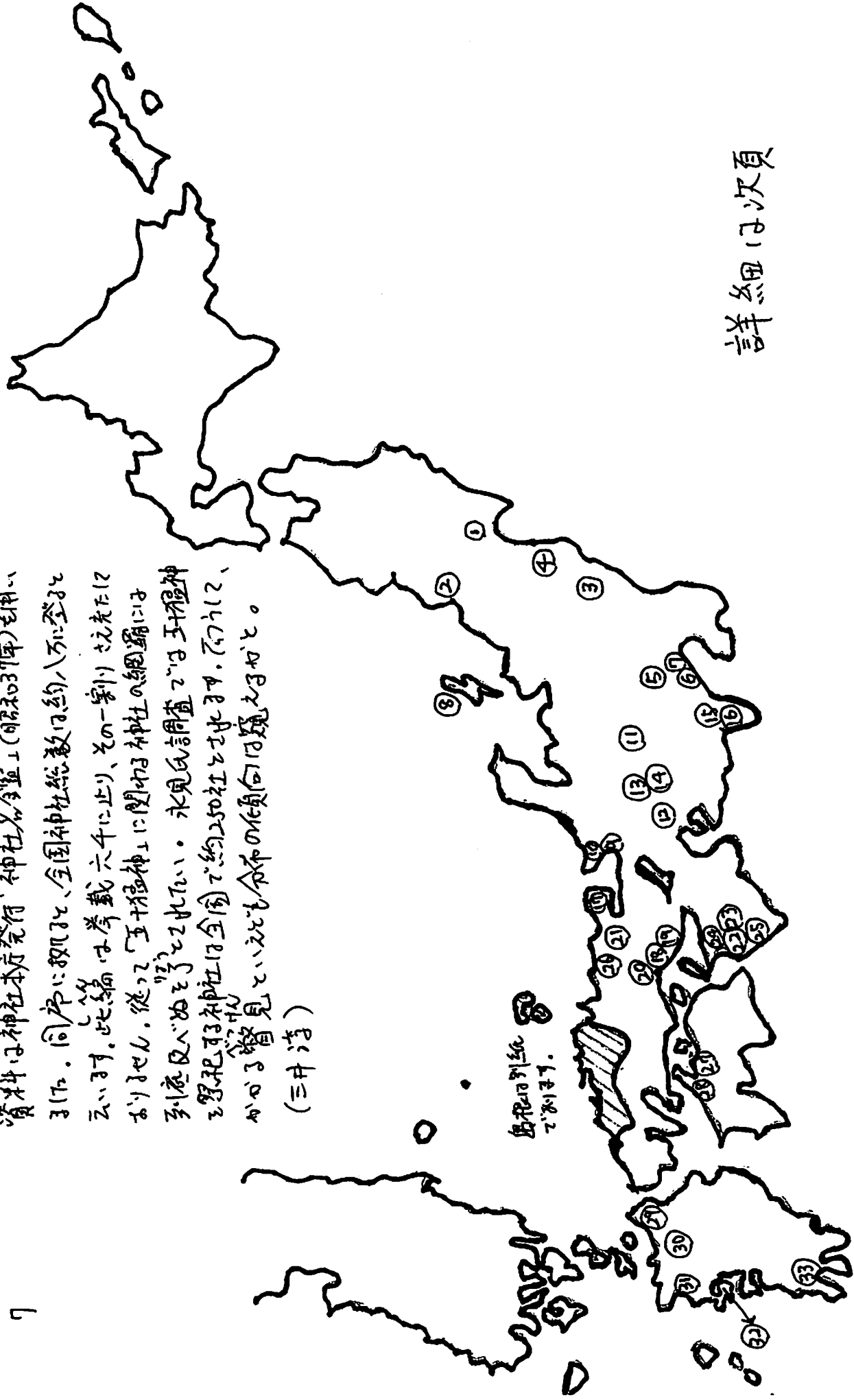
総数 258 社とあり「ホムヘニジ」は
教え方が「色々」ニジ「イ」ニジ積
算の区別あり。詳しくは大屋異
古神五十猛神ホムヘニジ「神奈備」
に載りし。尚、五十猛神の起
こり一因書空に、永見敏郎の起
工本ホムヘニジ「資料」ニジ「イ」

五十猛神祭祀の足跡全国編(二)

改訂版

資料は神社本庁発行「神社名鑑」(昭和三十九年)を用いた。同書に拠り、全国神社総数は約八万に達していると云い、此編は孝載六千に止り、その一割りを代表として取りせん。従って「五十猛神」に関する神社の総数には到底及ばぬと云うべき。永見氏調査は「五十猛神」を祀る神社は全国で約五社と述べている。そのうち、永見氏の見解と異なるものも数社あると云う。

(三井浩)



詳細は次頁

- ① 伊達神社 (祭神五神五猛神、経津主神、武甕槌神、宮城
泉加美町色麻村四邊 陸羽東郷(西川)五キロ)
- ② 青山神社 (祭神五神五猛命、比売命、伊波比主命、天之子
八根命、武甕槌神。山形県東田川郡三川村(青山)
さくまの)
- ③ 佐久間神社 (祭神五神五猛命、紀伊国名草郡日前園懸
大神と御請(下)に。福島県平塚市中山、常磐線平塚駅(東南
四キロ)
くさの)
- ④ 蒼野神社 (あまのぼろ、祭神膳所迹(美神、五神五猛神、大屋津姫
神、板津姫神、福島県双葉郡浪江町請戸、常磐線浪江町(北
バス四キロ)
かすの)
- ⑤ 辛利神社 (祭神速彥佐之命、五神五猛命他(9)柱、大宝年間
く701~704)の創立といひ、群馬県99野郎郡吉井町神保、上信電鉄
吉井駅(北)三キロ)
- ⑥ 杉山神社 (祭神五神五猛命等と、横滨市港北区(八潮町))
- ⑦ 杉山神社 (祭神五神五猛命、延喜式内社と云ひて、い子(同社
名)99く、何れか之れと定めて、い、横滨市港北区(新吉田町)
かすの)
- ⑧ 度津神社 (一の宮、祭神五神五猛命、又の名大屋彦神と申、又、又の
浮船の御神功(益し奉り、航海漁業(安)を以て、佐渡国式
内(九)社、佐渡郡羽茂村(飯田、佐渡汽船にて、本港(北)六キロ)
かすの)
- ⑨ 信濃彦彦神社 (祭神日本武尊、通(芸)尊、福神、敦賀市(信濃
之内、敦賀駅(北)八キロ)
- ⑩ 赤坂神社 (上の宮、祭神素戔嗚尊、古名考に式内白城神社と称、
福井県南足利町(今)社。北陸本線(今)庄(北)一キロ)

- ⑪ 大屋神社 (祭神伊弉冉尊、泉津事解男命、長野県、上の市(大屋町)
南(河原、信越本線(大屋駅)北)一キロ)
- ⑫ 新羅神社 (祭神素戔嗚命、八王子神、八幡神、美濃国(神名帳
所載)土岐郡七社の中(了)了田(只見)根(の)本(根)平(金)道(至)了。岐阜県99
治見市(足場町、中央線99治見(北)一キロ)
- ⑬ 津島神社 (牛頭天王宮、祭神健甕彦(左)之命、五神五猛神、岐阜県志
城郡(神岡町)山田、高山本線(吉川)駅(北)一キロ)
- ⑭ 栗原神社 (祭神五神五猛神、延喜式(今)同(入)社の一、岐阜県、吉城郡(上)室(村
宮原)字(栗原、高山本線(龍驤園)南)駅(北)二キロ)
- ⑮ 栗宮神社 (祭神大己貴命、五神五猛命、日本武尊、当社(大)樟(く)又(然)記(念)物
指定)と(伊)神(木)にて(崇)り、静岡県熱海市(東)宮、東海道本線(熱海)駅(北)一(村
志)取(北)六(キロ)
- ⑯ 本積神社 (山王、祭神五神五猛神、大物(主)神、延喜式(内)在(北)七(古)名(本)積(山)王
社(北)心)、京都府(与)御(宇)津(河)町(弓)木、宮津線(岩)滝(北)二(0)キ(ロ)
- ⑰ 広峯神社 (広峯(山)頭(王)、祭神素戔嗚尊、五神五猛命、俗(に)広(峯)天(王)と(云)ひ、
山城国(所)園(中)頭(王)の(起)源(と)云(ひ)と(云)ひ、(西)路(市)廣(峯)山、山陽本線(西)原(路)駅(北)
かすの)
- ⑱ 証言神社 (大(今)の)指(現)工(主)、祭神五神五猛命、素戔嗚命、大己貴命、神戸市
須磨区(指)現(町)、山陽本線(板)宿(北)徒(歩)五(分)
かすの)
- ⑳ 中臣(伊)速(神)社 (祭神五神五猛命、創建(口)室(兔)元(年)く(7)7(0)、延喜式(内)の(古)社、
兵庫(龍)野(市)攝(保)町(中)臣)

次頁に続く.....

- 21 養父神社 (祭神 念宿魂尊、五十猛尊、少彥尊、彥彥道彥命、船帆足尾命、延喜の刺 祭神 五座の内二座は名神大社に河世水当国三ノ宮ニあり。崇神天皇の御代 養父道彥命、丹波良下向の櫻社 社殿を建てたりと云。与摩原養父町 養父市 瑞字 谷)
- 22 伊太祈禰神社 (山東宮、祭神 五十猛命 西己神 大屋津命 有麻津命、坐仁天皇の御代 日向前 日向大神 日向王 祀り 吸江 今の地 遷し奉り、天武天皇大宝二年(702)に伊太祈禰、大屋津地境、有麻津比売三社を分遷し大同元年(806)の神、神武五座に十二戸を加之。和歌山 伊太祈禰、和歌山 電鉄 伊太祈禰 駅 五百x-14)
- 23 大屋都賀神社 (大屋魂、祭神 大屋都賀命、五十猛命、祇津命、命、阿和綿紀 伊太祈禰 20 和。和歌山 伊太祈禰)
- 24 伊達神社 (園部一の宮、祭神 五十猛命、神八井耳命、延喜の刺 名神大社に創られた社に之を以て上流に勧進し、古くは上社に依りて。和歌山 市 園部、阿和綿紀 六ヶ野 駅 西14)
- 25 立神社 (祭神 大屋魂神、和歌山 園部 有田 有田 線 有田 駅 下車)
- 26 伊蘇乃佐良神社 (祭神 神道毘神、大直見神、鳥取県、頭郡 八束町 守井宿、若井線 安来 駅 五百x-14)
- 27 伊蘇乃神社 (祭神 伊蘇乃之神、愛媛県 西条 市 野 日明野、予讚 線 西条 駅 八百x-4)
- 28 伊勢能神社 (祭神 伊勢能志神、延喜式神名帳に伊勢能伊勢能神社とあり、伊勢市 宮下、予讚線 北野 駅 五百x-14)
- 29 着地神社 (祭神 養父島命、和国 伊太祈禰 命、五十猛命、福国 伊太祈禰 市 天留、田川線 豊浦 駅 五百x-5)

- 30 玖紫神社 (祭神 白日別尊、田村大神、五柄猛尊、宝祿大神。延喜の刺 名神大社に創せり。比城山の頂上に加たし、後山麓にあり。筑紫 守井 玖紫野 町 原宿、鹿児島 本線 原宿 駅 五百x-14)
- 31 和智作神社 (祭神 五十猛命、大屋津命、和智山の中の一霊峯 和智山 の中腹に鎮座し、白石四郡の総鎮守神として住民の崇敬を享く。長崎 長崎 市 島原 有明村 辺田、長崎線 原宿 駅 五百x-14)
- 32 和智島神社 (祭神 大屋津命、五十猛神、祇津命、古く森岳大明神と称せられ森岳の地に奉祀した。島原藩 総社、長崎 長崎 市 島原 宮町、島原線 道 島原 駅 五百x-14)
- 33 神守豆峯神社 (祭神 五十猛神。延喜式神名帳に言記載あり。鹿児島 島原 園分 市 井 日豊線 園分 駅 五百x-14)

又「草料新羅神社」の語より「新羅」を以て神社と考へたり。この「白濁(しらぬ)」は除いた。